

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間:2007年11月上旬から12月中旬までの旬別  
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業:さんま棒受網漁業  
 対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月上旬以降低位水準となり、11月中旬にはほぼ終漁する。
- (2) 漁場: 11月上旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。釧路沖の漁場は11月中旬に消滅し、襟裳岬沖でも散発的となって終漁する。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月上旬～11月中旬は中位水準、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。12月中旬には断続的来遊となり、ほぼ終漁する。
- (2) 漁場: 11月上旬は、八戸～金華山沖に漁場ができる。八戸沖の漁場は11月中旬には消滅する。11月中旬～下旬は宮古～金華山沖が、12月上旬～中旬は大船渡～金華山沖が漁場となる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 来遊が本格化して、11月上旬は中位水準、11月中旬は高位水準にまで増加する。11月下旬から減少を始め、11月中旬は以降は中位水準、12月上旬～中旬は低位水準となる。
- (2) 漁場: 11月上旬は、常磐北部が漁場となる。11月中旬には鹿島灘でも漁場ができ、11月中旬～12月上旬は常磐北部～鹿島灘が漁場となる。常磐北部の漁場は12月中旬には消滅する。

### 2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	断続的			
	漁場	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁場	八戸～金華山沖	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖	大船渡～金華山沖	大船渡～金華山沖
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁場	北部	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘	鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(10月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬・前年をやや上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期後半に増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南～霧多布南の 15～35 海里付近(表面水温 11～14℃)、厚岸南の 20～40 海里付近(11～13℃)、釧路南～南南西の 20～30 海里付近(11～13℃)、襟裳岬東南東 25～30 海里付近(12～13℃)であった。落石～霧多布沖では、ほぼ連日小型船が多数操業。期後半には大型船が数隻操業。小型船大型船ともに多くは満船となった。厚岸沖では、18～19 日夜に大型船が操業し、85トン以上漁獲した。釧路沖では、ほぼ連日小型船 10～40 隻程度と大型船数隻が操業。小型船で数トン～30トン程度、大型船で 70～100トン以上漁獲する船が多かった。襟裳岬沖では、14・15・17 日夜に大型船が数隻～十数隻操業し、60～100トン以上漁獲した。

##### (3) 魚体

29～30cm モードの大型魚が主体で中型魚が混じる。中型以下の魚の混じり具合は 1～4 割程度。体重 140g 台が主体。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや下回ったものの、前年並の高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて来遊量が徐々に減少したが、19 日夜以降、再び増加した。

##### (2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古東～南東の 10～25 海里付近(16～18℃)、大船渡東～気仙沼東の 10～15 海里付近(16～18℃)、金華山東 10 海里付近(21℃)であった。宮古沖では、15 日夜以降ほぼ連日大型船が数隻～15 隻操業。数トン～100トン以上漁獲した。大船渡～気仙沼沖では、11～15 日夜に大型船が 10～30 隻操業。90～100トン以上漁獲する船が多かったが、15 日夜には数トン～15 トン程度しか漁獲出来なかった。金華山沖では、13～15 日夜に大型船が数隻～20 隻操業。13 日夜は 90～100トン以上漁獲する船が多かったが、15 日夜には数トンしか漁獲できなかった。

##### (3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体で、中型魚の混じりは少なかった。体重 140～150g 台が主体。